



全国高校総体（インターハイ）フェンシング競技大会
男子エペ個人 優勝
なかうら ひでのり
中浦 秀哲 さん

令和7年度インターハイ フェンシング男子エペ個人にて優勝を果たした、栃木商業高校3年の中浦 秀哲さんにお話を伺いました。

5歳から始まった挑戦
大阪府高槻市で生まれ、5歳の頃にフェンシングを始めた中浦さん。小学4年生からは、栃木の実績あるコーチから指導を受ける機会を得て、大阪から夜行バスで栃木のクラブに通いました。小学6年生で全国大会2位に終わった悔しさが残り、両親から「勉強かフェンシングか」と問われたとき、迷わずフェンシングを選びました。そして両親の提案により、中学生からは栃木市に移住し、努力を続けました。「やりたいことを全力で応援してくれる両親には、本当に感謝しています。」
苦境を乗り越え掴んだ栄冠
一昨年はベスト16、昨年はベスト8と着実に成績を伸ばし、迎えた今年の全国大会ですが、体調不良もあり予選を38位通過、さらに試合中には足のけいれんに襲われるなど苦しい状況が続きました。それでも「後悔だけはしたくない」と自ら奮い立たせ、これまで

で勝ったことのない強豪選手にも逆転勝利を収めます。満身創痍で迎えた決勝戦でもリードを奪われますが、集中力を極限まで高め、冷静に戦況を立て直し、ついに頂点に立ちました。「今までやってきたことを出し切ることだけ考えていました」と振り返ります。
紳士のスポーツとして
「フェンシングは紳士のスポーツ。見ている人をひきつける姿勢や人間性も大切」と語る中浦さん。その魅力は駆け引きにあると言います。指先の力加減や肩の高さ、間合いの取り方ひとつで勝敗が左右され、わずかな隙を逃さず飛び込むタイミングが勝負を決めます。積み重ねてきた何百通りもの技の中から、状況に合わせて戦略を組み立てることも大きな醍醐味です。
栃木から世界へ
今年度の目標は、カテゴリー別の世界選手権への出場。そして大学では世界ジュニアやシニア大会で結果を残し、ロサンゼルスオリンピック出場を目指しています。厳しい練習の日々の中、悩むこともあると思いますが、「そんな時は自然の中を散歩すると気持ち整理できます。栃木の好きなところですよ」と笑顔を見せます。



(左)中浦選手(右)萩原監督



小型充電式電池を使った製品の捨て方にご注意ください！

小型充電式電池を使った製品ってどんなもの？

モバイルバッテリー



充電式おもちゃ



電子たばこ



電動歯ブラシ など

ごみと資源の
分別早見表は
こちら▼



絶対に「もやすごみ」「もやさないごみ」で捨てないでください

電池の処分方法

捨て方を間違えると**火災**や**爆発**の危険があります！

種 類	処 分 方 法
小型充電式電池 ニカド電池／ニッケル水素電池 リチウムイオン電池 見た目が小さくても要注意！	ごみステーションには出せません 家電量販店などの『リサイクル協力店』に置かれている『小型充電式電池リサイクルBOX』に入れてください。また、市役所本庁舎、大平、藤岡、都賀、西方、岩舟総合支所およびとちぎクリーンプラザにも『小型充電式電池リサイクルBOX』が置かれていますので、ご利用ください
乾電池 アルカリ乾電池／マンガン乾電池 リチウム乾電池／オキシライド乾電池 コイン電池 リチウムコイン電池	『有害ごみ』として ごみステーションに出すことができます  コイン電池  乾電池
ボタン電池 アルカリボタン電池 酸化銀電池 空気亜鉛電池	ごみステーションには出せません 家電量販店などの『ボタン電池回収協力店』に置かれている『ボタン電池回収缶（ボタン電池専用）』に入れてください。なお、お入れいただく際は、お店の方に一声かけてください



ボタン電池

11月は『リチウムイオン電池による火災防止月間』です

小型充電式電池（リチウムイオン電池、モバイルバッテリーなど）が、もやすごみやもやさないごみに混ざって排出されることにより、収集車および処理施設の火災が多発しています。火災が発生するとごみの持ち込みやごみステーションの収集など、すべてのごみ処理がストップし、市民の皆様へ大きな被害を及ぼすことになります。皆様の協力が火災を防ぎます！ごみの分別にご協力をお願いします。

各電池の捨て方の
詳細はこちら▶



発火事故が急増中！



STOP温暖化！

カーボンニュートラル

太陽光発電と蓄電池の設置でもっと広がるメリット 電力のカーボンニュートラル化を進めよう！

2023年度の家庭からの二酸化炭素の排出量は、1世帯あたり約3,608【kgCO2／世帯】となっており、燃料種別内訳でみると、電気からの排出量が実に全体の46%を占めています。一般的な電力は発電時に化石燃料を使用しているため、CO2を含んでいます。太陽光発電や水力発電などの再エネ由来の電力を利用することで、CO2の排出を抑えられます。

また、太陽光発電や蓄電池を設置し、電力で「創エネ※」することも効果的です。ご家庭で使用している電力のカー

ボンニュートラル化をご検討ください。
※「創エネ」とは、太陽光発電や家庭用燃料電池などを利用して、電気や熱を自ら創り出すことをいいます。創エネは、省エネ（エネルギーのムダを省いて効率的に使うこと）や畜エネ（電気を蓄えること）と並び、持続可能な社会を構築するための重要な要素です。

※出展：温室効果ガスインベントリオフィス

栃木市ゼロカーボンシティ
実現に向けたロードマップ▶



問 カーボンニュートラル推進課 ☎ (21) 2591